

令和7年度第2回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1 日 時 令和7年11月20日(木)
午後2時30分～午後3時49分

2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 1階 ギャラリー

3 出席委員 (9人)

座長 上之園 公子 [学]
委員 鈴木 康司 [産]
委員 中村 順子 [産]
委員 安達 貴光 [官]
委員 坂本 克博 [金]
委員 益村 泉月珠 [言]
委員 小濱 樹子 [住]
委員 田中 千里 [住]
委員 山下 千春 [住]

4 欠席委員 (1人)

委員 原田 悟 [労]

5 議事次第 1) 開会

2) 町長あいさつ

3) 座長選出

4) 府中町第5次総合計画における基本計画の進捗状況について

5) 閉会

6 町出席者 町長 寺尾 光司
副町長 桑原 強
教育長 新田 憲章

(各部長)

総務企画部長 谷口 充寿
財務部長 増田 康洋
町民生活部長 胡子 幸穂
福祉保健部長 中本 孝弘

建設部長 磯 亀 智
区画整理担当部長 井 上 貴 文
危機管理監 佐 藤 伸 樹
消防長 新 宅 和 彦
教育部長 屋 敷 学

(事務局) 政策企画課長 藤永政己
政策企画課課長補佐 西山晋

7 傍聴者数 2人

8 議事の内容
(午後2時30分開会)

1) 開会

○政策企画課長

皆様、こんにちは。

定刻となりましたので、「府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開会いたします。

私は、事務局の府中町政策企画課長の藤永と申します。本日は、どうぞよろしくお願ひします。

また、本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

なお、議事の進行につきましては、規定により委員の中から座長を選出させていただき、座長に議事を進めていただくようになってますが、9月に委員の改選があり、本日はまだ座長が決まっておりませんので、座長選出までを事務局で進めさせていただき、そこからの議事につきましては、座長にお願いをしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、事前にお配りしております「会議次第」に沿って進めてまいります。

まず初めに、開会にあたり、寺尾町長より、ご挨拶を申し上げます。

2) 町長あいさつ

○町長

こんにちは。町長の寺尾です。

令和7年度第2回府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、公私ともにお忙しい中、まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

前回の有識者会議は8月29日に開催したところですが、この9月に任期満了による委員改選を行いまして、新たなメンバーによる会議の1回目となります。新たに2名の方を委員に迎えています。再任を含めまして、皆様におかれましては、委員をお引き受けいただき誠にありがとうございます。

よろしくお願ひします。

本会議は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、地方創生に関する施策の基本的な計画である「総合戦略」について、産(産業)・官(行政)・学(学識経験者)・金(金融機関)・労(労働者)・言(言論・マスコミ)の各分野の関係者や、住民の代表など、様々な分野でご活躍されている委員の皆様からご意見・ご提言をいただくことを目的に設置いたしております。

前回の有識者会議では、地方創生のための「総合戦略」と、現在、町で策定中の今後の10年間の長期総合計画である「府中町第5次総合計画」の目指す方向性が一致していることから、次期総合戦略の取組みについては、「府中町第5次総合計画」に包含されるものとし、一元的に取り組むことを説明し、ご了承をいただきました。

そのうえで、策定中の第5次総合計画におけるまちの将来像を示す「基本構想」について、ご報告し、委員の皆様からご意見を賜りました。

なお、その後、国では高市総理が誕生し、少し情勢が変わっていきます。「地方創生」は「地域未来戦略」に衣替えし、より地方の経済活性化に重点を置く方針が示されています。まだ、具体的なことは示されていませんが、強い経済、危機管理投資など積極的な財政対策が検討されている模様です。地方に対してどのような目標や施策が示されるかわかりませんが、これまでの地方の課題を解決し、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある地域社会を維持していく取り組みは、今後とも継続し発展されるものと思っております。

本日は、国の動向とは直接かかわらない部分で、第5次総合計画の「基本構想」で示した将来像を実現するための施策の方向性をより具体的に示した「基本計画」の進捗状況について、ご報告させていただきます。

委員の皆様におかれましては、それぞれの知見やご経験などに基づく、多方面の視点にて、どうぞご遠慮なしで、忌憚のないご意見をいただければと思います。

それでは本日はよろしくお願ひいたします。

(その後、事務局にて委員の紹介・資料確認)

3) 座長選出

○政策企画課長

続いて、座長の選出にまいります。

座長は、委員の互選により選任することとなっていますが、どなたか、ご意見がございましたらお願ひいたします。

○坂本委員

学識経験者であり、前回の総合戦略策定時において、座長として携わっておられる上之園委員にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○政策企画課長

ただいま、上之園委員を座長に推薦する提案がございましたが、よろしいでしょうか。

(各委員 : 異議なし)

○政策企画課長

それでは、上之園委員に座長をお願いいたします。
どうぞよろしくお願ひいたします。

○座長（上之園委員）

座長にご指名をいただきました、上之園でございます。
本会議ではそれぞれの分野でご活躍されている皆様に、府中町のまちづくりについて自由闊達な意見を述べていただく場となっております。円滑な議事進行に努めてまいりたいと思います。皆様のご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

4) 資料説明・意見交換

議事：府中町第5次総合計画における基本計画の進捗状況について

(資料について事務局から説明)

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

では、本日の議題である、「府中町第5次総合計画における基本計画の進捗状況について」につきまして、皆様からのご意見を幅広くお聞きできたらと思います。

○山下委員

月1回ほど子どもたちを集めて活動をしています。前回は庄原の比和に行き、保護者と一緒に山に登り、秋の山の散策をしました。その際に、子どもたちの体力の無さを痛感し、問題に感じました。一方で山に登った後、昼食時に子どもたちが嬉しそうにヤッホーと叫ぶ姿を見て、子どもらしさを発見することができました。このような活動を続けていきたいですし、もっとたくさんの方に参加いただき、体力的にも感情的にも豊かになれるような活動をできればと思っています。学校では学べない屋外での活動を重要視して、子どもたちの心の成長を見ていきたいです。

○田中委員

資料の中に「コミュニティの輪」という言葉がありましたが、学校によって差が大きいと思っています。すごく活性化している学校もあれば、そうでない学校もあり、その差をどうしたら良いかを考えています。PTAも同様だと感じています。また、「つながりを深め」という言葉が資料にありました。町内会長が高齢化しており、行事への参加が難しことや、町内会に加入する人が少ないという話を聞いています。こちらも何か良い方法はないかを考えています。そして、「安全なまちで安心して」という説明がありましたが、災害時の避難の際に、ご高齢の方に声を掛けても隣に住んでいる人が誰かわからないため、遠慮される方がいらっしゃったりします。何とか皆さんの輪を繋いでいきたいと思います。

○小濱委員

府中町に越してきて26年ぐらい経ちますが、とても住みやすい町だと思っています。ただし、日本全体で少子高齢化が進んでおり、府中町もその影響を避けることは難しいと思っています。また、若い世代を見ていて、家庭を持ち、子どもを産むことが当然ではないと考える人が増えていると感じています。このままでは様々な面で厳しい事があると思いますので、各所が連携していくことが必要だと感じています。私はこれまで学校で活動をさせていただき、現在は社会福祉協議会の会長を務めていますが、地域の人がボランティアという形で多様な活動に関わっていることを実感しています。せっかく活動してくださっている方がいるので、みんながゆるやかに繋がりながら、地域おこしをしていければと思います。そのためには行政の各課が繋がっていくことも必要だと思います。

例えば、資料に「災害に強いまち」や「安全に暮らせる地域づくりを支える」などの言葉が出てきますが、小学校は防災の授業に取り組んでいるので、ここに「小学校」という言葉を入れて欲しいと思いました。学校の取組に地域や防災士が入ることでより強固になると思っています。

社会福祉協議会も地域づくりということで、各小学区で地域の課題を掘り下げて、課題解決を行うために地域住民が主体となり様々な活動を始めています。そこにコミュニティスクールや町内会などが加わると、より繋がりが広がるのではないかと思います。

○益村委員

計画書全体を通してのお話になりますが、住民視点に近い内容を最初に示し、次にそれを支える行政の役割を示すという構成は非常に分かりやすく、視覚的にも捉えやすい点が素晴らしいと感じました。特に計画の中で気になったことは、ウェルビーイングという言葉が使われていることとそのウェルビーイングの中身がしっかりと散りばめられていることです。ウェルビーイングには「やってみよう因子（自己実現と成長）」、「ありがとう因子（繋がりと感謝）」、「なんとかなる因子（前向きと楽観）」、「ありのままに因子（独立性と自分らしさ）」という4因子があると言われており、これが散りばめられていることは本当に素晴らしいと思いました。

この中で「ありのままに因子」に関して、こうなったら良いなという点をお話させていただきます。行政は、障害のある方、介護が必要な方、子育て中の方々など、多様な人々への支援を行う上で、多くの課題に直面していると思います。そのような中で、例えば順応できないコミュニティがないよう、不登校の子どもたちを支えている方もいらっしゃると思うので、行政からの何か発信があるとより良いと思いました。

もう一点、災害の対応のお話をさせていただきます。しっかりと記載されており、素晴らしいと思います。府中町は自然が豊かで、とても住みやすい環境だと思いますが、やはり災害への対応も考える必要があると思います。災害も激甚化してますし、皆さんも最近、ニュースで目にする熊の出没などの不測の事態への対応はなかなか想像ができないと思います。予測できないことが多い世の中なので、何か不測の事態があった時にはみんなで考える体制づくりが必要になってくると思いました。

○坂本委員

資料の48ページと49ページに「魅力で暮らしたくなるまちをつくる」という基本施策についての記載があり、その中でも「関係人口の増加を促進します」という言葉に注目しています。

前回の会議において、安達委員より施策を考えるアンケートを取るだけでなく、特に若い世代に対し転出・転入の理由などの定性的な調査分析等を行い、情報等の丁寧な把握をすることの重要性についての発言があったと思います。府中町内にお住まいの若い世代の意見を聞くことも重要ですが、県外へ転出した若い世代が何を考えているかを把握する手段も重要になってくる

と思います。資料の48ページの「暮らし続けたい」「戻ってきたい」「暮らししてみたい」と評価される地域ブランドの確立を推進します。」という取組について、思いつきの提案ではありますが、若い世代の方との関係を継続的に持てるような仕掛けづくりができればと良いと思いました。例えば、成人式はどこの地域にもあると思いますが、府中町独自で30歳、40歳という節目の年に若い世代の方が、外から地元に戻って集うイベントを開催するとともに、外からの府中町はどのように見えているか、外に出られた若い世代がどこで何をされているのかといった情報をイベント開催時に収集し、中長期的に情報を蓄積しデータ化した上で、新たな施策に繋げていくことができれば良いと思いました。

○鈴木委員

働き手不足というのは本当に深刻化しております、特に商業、我々のような皆様がお休みになってる時に働かなければならない職種というのが、本当に人気がないのが事実です。弊社で言えば、午後9時や午後10時まで働かなければならぬので、働き手不足が今後も一層、深刻化すると思っています。

先ほど坂本委員からのご意見がありましたけれども、若者の流出が広島は顕著だという話をニュースで耳にします。その中で引き続き、Uターンが促進されるような子育て支援施策に踏み込んで計画を作成いただきたいと思います。

話は全く変わりますが、私もよく府中町を歩くことがあります。歩道がでこぼこしているところがあり、足を挫きそうになることがあります。周辺のごみ拾いを会社として行う機会がありますし、ご高齢の方も多い地域もあると思いますので、歩道の整備についても踏み込んで計画を作成いただきたいと思います。

○中村委員

現在、商工会では大きく分けて二つの柱で事業を進めています。

一つは、経営支援の事業です。各分野において、町内の事業者の皆さんが抱えている経営上の課題に対して一緒に考え、解決に向けてサポートしていく取り組みです。事業計画の作成、新しい販路を開くための展示会出展の支援、SNSなどのツールを使った販路開拓支援などの幅広い支援を行っています。こうした支援は、町内の事業者の皆さんの発展に繋がるだけでなく、府中町全体の活気を生み出す基盤にもなっていると考えています。今後も支援を続けていきたいと思っています。

二つ目は、地域振興の事業です。商工会の青年部や女性部の活動を通して、町内の事業者と住民の皆様が触れ合う場を作り、地域のにぎわいを生み出し

ています。今年度は、セミナーやイベントなどを積極的に開催していく所存です。府中町の販路開拓支援補助金事業は、各事業者の販売先を広げる上で、大きな力になっています。自治振興課と打ち合わせを重ねながら、より良い形で進めていけるよう、ご相談を申し上げていきたいと思ってます。今後も町のご協力をいただきながら、商工会も支援を続け、府中町のにぎわい、活性化を力強く進め、資料に「地域の様々な繋がりを支える」という言葉があるように、府中町商工会もしっかりと皆様と協力しながら、取り組んでいきたいと思います。

広島県の若者の流出について意見がありましたが、商工会の青年部や女性部にもなかなか若者が入ってきません。また、経営者の中にも若者不足について、悩みを抱えている方もいらっしゃいます。「人生100年時代」という言葉がありますが、何歳まで元気に府中町を支えていけるのか、私自身も考えてみたいと思います。

商工会で皆様の協力のもと出来ることがあれば、どんどん進めていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

○座長（上之園委員）

前回の会議において、すべての項目が県内1位だとしても、住居・利便性の面から府中町に手が届かないで、近隣の2位、3位の地域を妥協して選択するという場合もあるということで、教育を例にとりましたが、府中町にしかない突き抜けた魅力や無理をしてでも府中町に住むというような魅力が、もしかしたら必要かもしれないお話ししました。

大学生と毎日接する中で最近の話題の一つとして、広島駅のミナモアがとても話題になっています。ミナモアは全国的にも注目されており、一つの商業施設にとどまらず、JR、市内電車、バスなどの公共交通機関、ホテル、そして向かい側の既存のデパートと競合するのではなく、連絡通路で人の流れを作り、その先に図書館があるという構造になっています。さらなる発展をしていくのではないかと工事の様子から見てとれます。

利用した感想を学生たちに聞いてみると、「おしゃれで楽しい」や、「大学卒業後、広島から転出しようかどうしようか」などの広島のイメージが少し変わったというような話をしています。それだけではなく、高齢者の方々も、公共交通機関を利用し外出したり、映画を見ることができたり、久々に疎遠になっていたお友達と会って、お茶や食事をするということが自力でできたという話を耳にします。小さい子ども達が二階から電車に乗ることにわくわくするように、自分たちにとって不便だったことが解消されたことに加えて、こんなこともできるんだっていうわくわく感があるような気がします。このことを府中町に置き換えると、基本施策の5、6に関係すると思います。とても素晴らしい施策だと思いますが、コンパクトな府中町という特性を生か

すためには、縦割りではなく総合的な大きなプロジェクトとして、ニーズに応えるとともにさらに住みやすく、わくわくするというようなまち、府中町のイメージを作ることができれば良いと思います。高齢者や障害のある方にも、やさしいや便利といったユニバーサルのまちに加えて、楽しいと思えるまちを作るためにも、行政だけではなく、地域の全ての産業、金融、交通などの多様な団体の総合的な横の繋がりができると、もっと大きなプロジェクトができる府中町になると思いました。

○安達委員

座長や小濱委員がおっしゃったように、行政間の連携は当然ですが、行政に限らず、住民の方、企業、多様な主体が緩やかであっても繋がっていくことがまちづくりの解決策の一つになると感じました。

第5次総合計画における基本計画全体を拝見しまして、各分野における単位施策と指標の間に少し乖離があるように感じました。あくまでも総合計画の基本計画の中で具体的な事業を細かく示す必要がないことは認識していますが、総合戦略は町長からの挨拶にもあったように、政権が変わって名称は変わりつつありますが、基本的には地域の人口戦略だと思っています。そのような視点で考えた場合に、もう少し具体的な取り組みの方向性が示されても良いかなと思いました。具体的な取り組みについては総合計画の中の実施計画にて示されると、前回の会議でご説明いただいたのでそちらで拝見できればと思います。実施計画の策定はもう少し後になると思いますが、もし可能であれば、本日見せていただければ良かったかなと思いました。

先ほどの坂本委員のご発言にもありましたように、48ページと49ページに記載の「地域ブランド力の向上と発信」について、具体的な施策は実施計画や分野別の計画で示されるものと理解していますが、特に、移住や定住に繋がる施策、あるいはその前の段階である関係人口の創出に向けた取り組みなどの現時点での方向性について、もし何かお考えがあればお聞かせいただきたいです。

○政策企画課長

具体的な施策については安達委員が言われたように実施計画の中で検討を進めていますが、今年度、作成している府中町のPRアニメを活用し、魅力発信やブランド力の向上を図っていきたいと考えています。また、広島県から交付される移住支援補助金を活用した事業を今年度から開始しておりますので、総合的に移住支援を進めていきたいと考えております。

○町長

ブランド力の向上という点では単独市制も一つの選択肢ですし、PRアニメ

に加えて、府中町に安芸の国府があつたことや国指定の下岡田官衙遺跡についての歴史的価値をしっかりと発信できるような施策も今後、考えていきたいと思っています。

また、先ほど説明がありました移住支援事業については、広島から東京に出て、東京から帰ってこようと考えた時に、広島市から近いなどの府中町の利便性の良さについて広島県出身の人は認識していると思うので、広島出身ではない人が府中町に移住してみたいと思えるような施策も検討したいと思っています。あわせて、3世代同居及び近居の支援をし、人を呼ぶような施策もできればと思っています。

○安達委員

ブランド力の向上といつても先ほどご説明があつたように様々な手法があると思います。例えば、府中町にはマツダという大きな企業がありますし、自動車産業の裾野は広いので、多くの有力な企業が町内にあると思います。そのような企業とタイアップをし、ブランド力の発信ができるかと思います。

また、私の実感として、府中町は子育て環境が充実しているというイメージが、ある程度定着しているように感じています。これは府中町のブランド力を高める上で重要な要素になると思います。しかし、今回の第5次総合計画の基本計画を見ると、現行の戦略にあつた「子育て環境の充実」や「広島都市圏で1番の子育て支援」といったものが見えてこないと思いました。前回の会議での説明では、ワンルームマンションの増加により、ファミリー層が住める物件が不足しているとのことでしたが、現行の戦略に基づいた取り組みを継続していく方向性はあるのでしょうか。

○政策企画課長

具体的な取り組みについては検討中ですが、引き続き子育てがしやすいまちというイメージを崩さないよう、事業を進めていきたいと考えています。

○町長

子育て関係の事業でいうと、子ども医療費助成制度の所得制限を廃止しました。一方で、18歳まで医療費の助成を行っている自治体が多くありますので、その部分は引き続き、考えていくべきだと思っています。あわせて、県の補助金の対象を広げて欲しいと思っています。

子育て関係の事業については、先ほど安達委員が言われたようにある程度、府中町は子育てしやすいイメージが定着していますので、それを落とすことなく、しっかりと事業に取り組みたいと思っています。

○安達委員

坂本委員からも若い世代の考え方を把握することの重要性について言及がありました。最後に私からも一言申し上げたいと思います。

昨年度、町の中学生を対象としたまちづくりアンケートの結果を見ると、大人だけでなく中学生も「暮らしやすい」と感じている割合が高く、主に子育て環境の魅力を評価していることが分かりました。このことから、中学生も府中町に対して一定の愛着や誇りを持っていると推察いたしました。このような意識や機運をしっかりと捉え、例えば、若い学生の皆さんのが、進学や就職の際に、町外や県外へ新たなチャレンジとして出て行くことはあっても、何かのタイミングで、故郷である安芸府中に帰ってきたいと思えるように、仕事の創出や生活環境の整備をしっかりとすることが必要だと思っています。あわせて、府中町はそのような環境整備に取り組んでいることを住民や町外の方にもしっかりと発信していくことが重要だと思っていますので、その部分も十分留意しながら、今後の施策を検討していただければと思います。

○座長（上之園委員）

活発なご意見を皆様からいただき、ありがとうございました。

本日の会議で、委員の皆さんからいただいた意見等も十分参考にしてください、計画の策定を進めていただきたいと思います。

最後に、今後のスケジュールについて、事務局から何かありますか。

○政策企画課長

本日は大変お忙しい中ご参加をいただき、ありがとうございました。次回の会議につきましては、来年の3月ごろを予定しておりますが、年度末ということもありますので皆様のスケジュールが厳しい場合もございますので、その際は書面開催等の検討もさせていただきたいと考えております。詳細が決まり次第、ご連絡いたします。なお、本日の会議の議事録を事務局で作成しますので、内容のご確認について、後日改めてご連絡させていただきます。

6) 閉会

○座長（上之園委員）

それでは、議事を終わりたいと思います。

閉会にあたり、桑原副町長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。

○副町長

本日は大変お忙しい中、また公私ともにご多用中の中ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

本日の会議では、府中町における最上位計画であり、次期府中町まちひとしごと総合戦略と一体的に策定している第5次総合計画の基本計画における

取り組みの方向性を中間報告という形ではありました、一定の説明をさせていただきました。

委員の皆様からは、熱心なご意見、貴重なご意見を多くいただきました。

町として、人口減少対策をはじめとする各種取組を進めていく上で、本日のご意見一つ一つが非常に示唆に富んだ内容を含むものであって、府中町が進める若者や女性にも選ばれる地域づくりの取組の糧として、今後の具体的な事業実施の中で、今日いただいた意見をしっかりと生かして参りたいと考えております。

府中町第5次総合計画が目標として掲げている「みんなの「暮らしたい」がかなうまち」を実現していくためには、まちづくりの源泉であり、まちの資産である「住民」を起点に、住民一人ひとりの暮らしにしっかりとフォーカスし、府中町で暮らしてよかったですを増やす取組を、また、住民の皆様の満足度や幸福度を高めていくための取組を着実に進めていくことが、先ほど申しました「みんなの「暮らしたい」がかなうまち」を実現するためには重要であると感じているところです。

委員の皆様におかれましては引き続き、府中町における地方創生の取り組みについて、忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも、ご協力、ご支援、様々な形でお願いしたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

○座長（上之園委員）

本日は、皆様ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでございました。

（午後3時49分閉会）